

パブリック・サービス研究分科会 8月夏期研究合宿 「共同保存図書館・日本の大学図書館協力の可能性」研究グループ報告書	
日時	2009年8月24日(月)～26日(水)
場所	山梨県石和温泉旅館 「糸柳」
記録	塩瀬 (女子栄養大学)
参加者	植苗(中央大学)、塩瀬(女子栄養大学)、中島(桜美林大学)、山口 (実践女子大学)

前回までの進捗状況

- ①5月の例会において研究テーマを「共同保存書庫の可能性」に絞込んだのを受け、6月、7月と共同保存に関する文献収集を行い、重要な文献については本文を読まないでも大意が分かる程度に概要を紹介した資料を作成しインターネット上に用意した共有フォルダへアップロードする作業を継続した。
- ②日本の大学図書館間では共同保存書庫が実現されていない理由を検討し夏期合宿で中間発表できるように各自が整理することを確認した。
- ③書架の狭さ・複本購入率・大学間重複率・外部保管 or 別置の規模・出納数などの情報から共同保存書庫に対する需要とその導入効果を検討すること及び実現の可能性が高い共同保存書庫モデルについて夏期合宿で考えることを確認した。

合宿中の作業内容

- ①蔵書の学外保管状況に関するアンケート調査を行うこととし、アンケート内容を検討した。
- ②国内で共同保存書庫が実現されていない理由について討議した。=>大学での除籍がネック？
- ③『共有資産としての保存資料』という概念の導入により除籍問題を回避できないか討議した。
=>除籍なしにあたかも自館資料であるかのように利用できる道を提案。
- ④共同保存図書館を運営していく上で必要と思われる基本的な機能の洗い出しを行った。
- ⑤保管を考えた場合に必要な建物/設備について今後、どのような視点で考えるかを協議した。
- ⑥共同保存図書館を設置する場合の設置運営母体となる組織と実際の運営に携わる組織としてどのような組織・機関・団体が考えられるかを検討した。
- ⑦最終成果物たる論文の章立てについて、そのアウトラインを考えた。
- ⑧今後の検討事項を確認した。
 - ・加藤先生にご助言いただいた米国でのコンソーシアムについての調査
 - ・共同保存図書館の定義
 - ・必要な機能・規模・立地・設置母体/運用主体組織など詳細化する
 - ・共同利用の仕組みー共同保存図書館の機能と関連付け、より具体化させる
 - ・主題別共同保存図書館と一般的な共同保存図書館のメリット・デメリットの検討
 - ・共同保存図書館が非参加館に与える影響
 - ・館種の異なる館との共同化の可能性ーこうすれば実現できるのでは？ーの考察
 - ・共同保存図書館の付帯的な機能ー製本・修復、電子化、共同購入
 - ・理想とするモデルとしての共同保存図書館像へまとめる

次回までの課題

- ・アンケート結果の整理
- ・加藤先生にご助言いただいた米国でのコンソーシアムについての調査
- ・共同保存図書館の定義

以上